記者発表資料

平成２４年１２月１９日
国土交通省 東北地方整備局
新庄河川事務所

濁沢第4砂防堰堤の災害復旧工事が完了しました

～平成 23 年 5 月 22 日庄内町濁沢川池ノ台地区において発生した深層崩壊対応～

平成23年5月22日に庄内町立谷沢地内の濁沢川池ノ台地区において発生した大規模な深層崩壊対策として緊急工事を実施しておりますが、今般、被災した濁沢第4砂防堰堤の災害復旧工事が完了しましたので、お知らせいたします。

濁沢第４砂防堰堤の災害復旧の概要は以下のとおりです。

■位置：山形県庄内町立谷沢地内濁沢川池ノ台地区

■概要：濁沢第４砂防堰堤の袖部復旧

池ノ台深層崩壊に伴い、計画土砂量をはるかに上回る約 110 万m3 (東京ドームの約 90%)の土砂が一気に流下しましたが、濁沢川に施工されていた 4 基と施工中の 2 基の砂防堰堤により、下流への大規模な土砂流出を防ぐことができました。

崩壊地下流に位置する濁沢第４砂防堰堤では、計画をはるかに上回る流量(3,000m3/sec 以上)により袖部が破断・流失したほか、厚さ 20 メートルを越す土砂に完全に埋没しましたが、堰堤本体の損傷はありませんでした。しかし、袖部が欠損した状態では、出水や土石流が発生した際に堰堤の下流が洗掘され転倒するおそれがあります。

このため、災害復旧工事を申請し、昨年度から被災した袖部の補強を実施してまいりましたが、今般、被災した砂防堰堤袖部の補強工事が完了しました。

また、池ノ台地区の崩壊土砂が濁沢川に流入する区間において、急激な土砂の流出を防止する暫定的な護岸流路（ブロック護岸）工事についても、作業員の安全を確保するための遠隔操作(無人化)の施工により完了しました。

＜発表記者会：新庄新聞放送記者会、酒田記者クラブ＞

～問合せ先～
国土交通省　東北地方整備局　新庄河川事務所
住　所：山形県新庄市小田島町５－５５
ＴＥＬ：０２３３－２２－０２５１（代）
副 所 長(砂防)　齋藤　信哉　（内線２０４）
立谷沢川砂防出張所長　石渡　俊明

濁沢第４砂防堰堤の施設諸元および災害復旧の工事概要の具体は以下のとおりです。

■ 濁沢第４砂防堰堤［昭和 61 年竣工］の施設諸元

（主堰堤）　堤高 18.0m　　堤長 163.5m

水通し高 EL 559.0m　袖部天端高 EL 563.2m　※袖部高さ 4.2m

■ 災害復旧の工事概要

①復旧に要した工事費　　136 百万円

②工事期間

（平成 23 年度実施工事）　H23.8.17～H24. 1.10

（平成 24 年度実施工事）　H24.8.10～H24.12.10

③主要な工事数量

コンクリート　　約 1,600m3

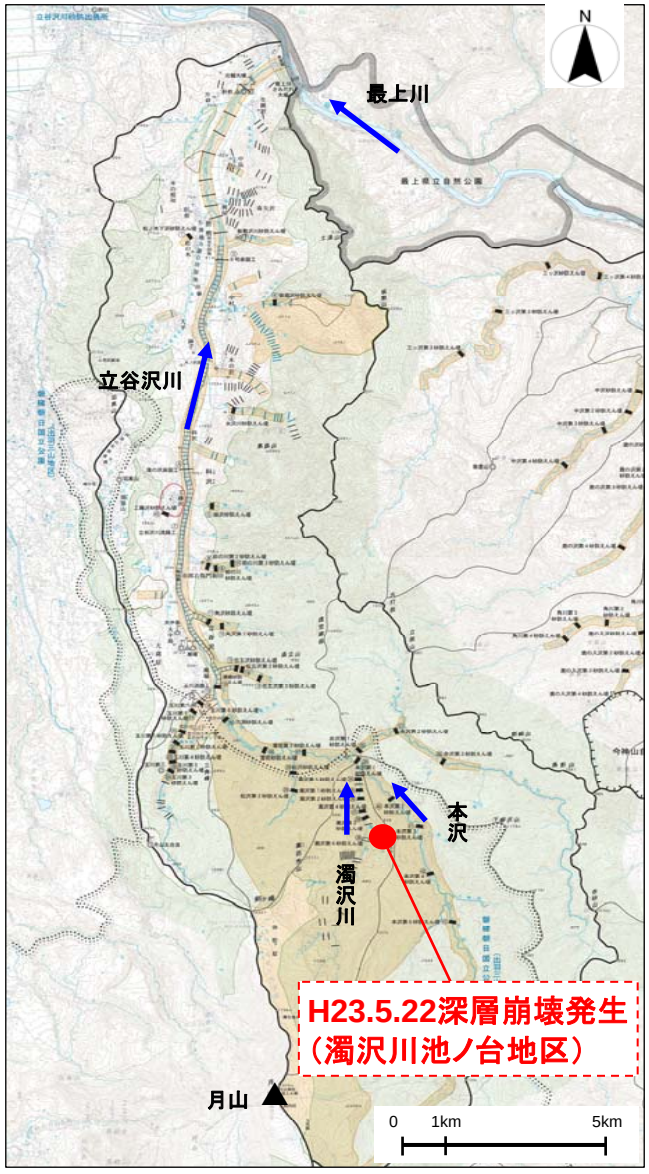
④袖部の補強内容

・袖部の天端幅を被災前の 2.5mから 3.0mに拡大することにより、土石流に耐えうる構造とした

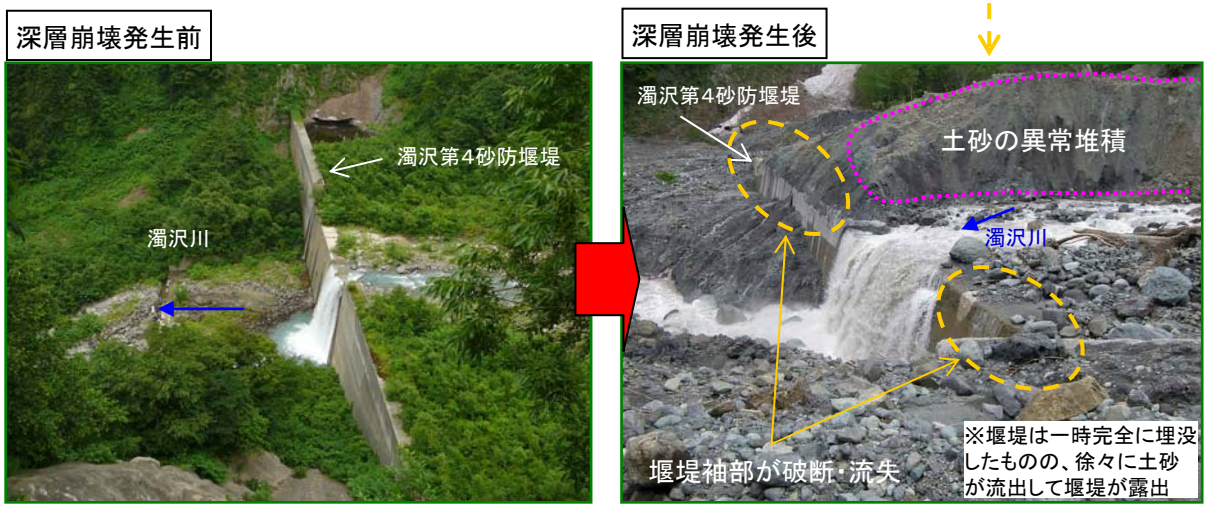
・堰堤本体と袖部の活着面に鉄筋を挿入することにより、袖部の安定性が向上する構造とした

■濁沢第４砂防堰堤の現地状況【深層崩壊発生前後の状況】

立谷沢川流域図



土砂流出後の濁沢川　平成23年6月7日撮影

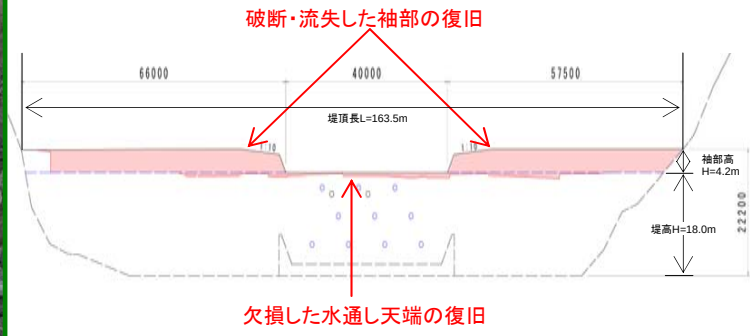


■濁沢第４砂防堰堤の現地状況【復旧完了写真】

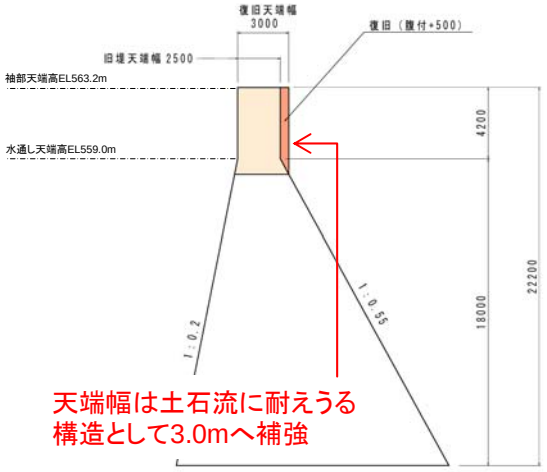
○平成23年5月22日に濁沢川池ノ台地区において大規模な深層崩壊が発生。
○濁沢第４砂防堰堤（堤長163.5m 堤高18m）の袖部が破断・流失したほか、一時完全に埋没。
○災害復旧事業の採択をうけ、昨年度から緊急対策工事に着手。
○袖部断面（天端幅）を被災前の2.5mから3.0mに拡大して補強。
○今年度の緊急復旧工事により、被災した砂防堰堤袖部の復旧が１１月末に完了。

・復旧に要した費用：136百万円（ｺﾝｸﾘｰﾄ量V=約1,600m3）
・平成23～24年度の2ヵ年で災害復旧工事を実施

正面図



断面図

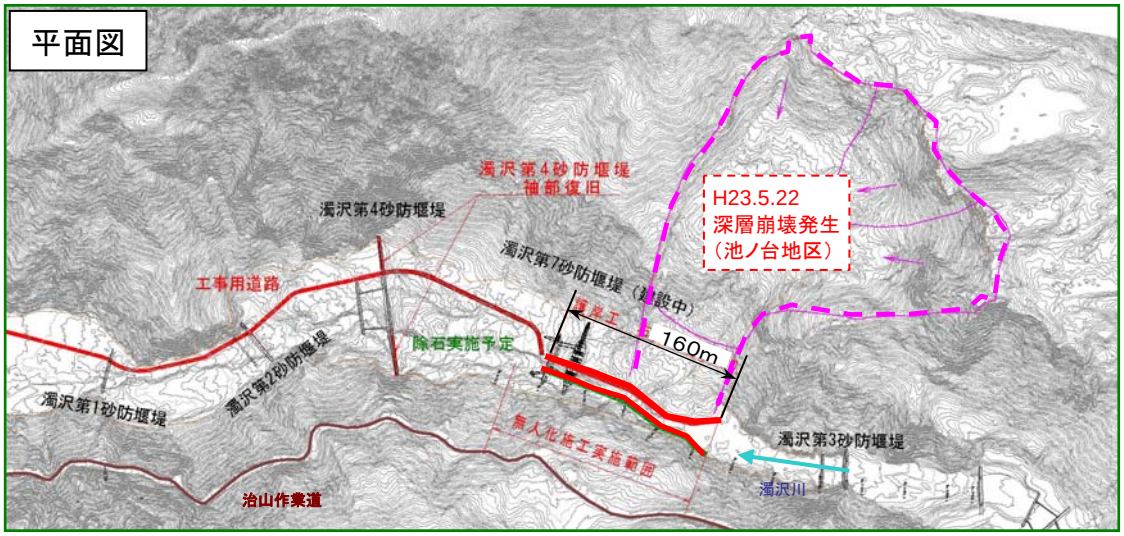


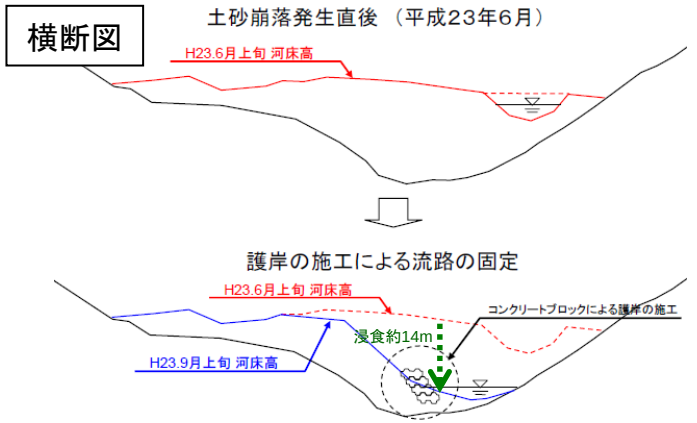
■崩落斜面直下の護岸工整備（無人化施工）

○池ノ台深層崩壊対策として、
- 膨大に堆積した河床の土砂の急激な浸食による流出防止
- 崩壊斜面脚部の浸食による不安定化防止（山脚固定）
- 土砂の流出による下流への濁水被害の軽減

などを目的に、<u>現在の流路を暫定的に固定するブロックを用いた護岸工を施工</u>しました。

○施工にあたっては、崩壊斜面上部に設置した伸縮計の変位が大きく、再崩壊のおそれがあったことや、上流からの土石流流下が懸念されたため、<u>超遠隔操作（無人化）施工</u>を行いました。（平成24年11月完成）





※深層崩壊によって堆積した土砂はあまり強い降雨の無かったH23.6～9までの3ヶ月間でも大きく浸食流出しており、河床が急激に低下していました。